

金沢大学における日韓共同理工系学部留学生事業に対する中間評価報告

太田 亨

I. はじめに

日韓共同理工系学部留学生事業（以下、「日韓プログラム」と略す）は平成 12（2000）年度から 10 年を目処に開始された日韓両国政府による共同プログラムである（太田 2001:53）。金沢大学では第 1 期（平成 12 年度）から、本稿執筆中の第 6 期（平成 17 年度）まで連続して、日韓プログラムによる学生を計 14 名受け入れてきた¹（表 1 参照）。

表 1 金沢大学における日韓プログラム学生受入れ状況

学 部	学 科	第 1 期 2000-05	第 2 期 2001-06	第 3 期 2002-07	第 4 期 2003-08	第 5 期 2004-09	第 6 期 2005-10
工学部	土木建設工学科	1				1	
	物質化学工学科	1					
	電気電子システム工学科		1	1	1		
	人間・機械工学科				1		1
	情報システム工学科	1	1	1			
理学部	数学科				1		
	物理学科			1		1	

第 3 期からは理学部が日韓プログラムに参加し始め、すでに 3 名の学生を受け入れている。また、2005 年 3 月には第 1 期生がプログラムを修了し、第 1 期生 3 名のうち 1 名が金沢大学大学院自然科学研究科に入学した。

このように、金沢大学における日韓プログラムは、受入れ人数こそ多くないものの、毎年着実に学生を受け入れており、留学生センターにおける半年間の予備教育とそれに続く 4 年間の学部教育が連携し、さほど大きな問題もなく現在に至っていると一応総括できる。

しかしながら、細部を見てみると、この 6 年の間に日韓プログラムと金沢大学を取り巻く状況は大きく変化しており²、10 年を目処に開始されたプログラムの中間地点を過ぎた 2005 年 12 月現在において、金沢大学として日韓プログラムに参加してその結果がどうであったのかを、プログラムに参加する学生の立場から、プログラム生を受け入れた学部教員の立場から、そして予備教育を担当するコーディネーター（筆者）の立場から、という形でまとめておく必要があると考える。その結果は、プログラムの後半 5 年間で運営するために留意・改善しなければならないさまざまな点を浮き彫りにしてくれるものと思われる。さらに、金沢大学から発信されるこのような形の中間報告は、日本全国で日韓プログラム学生を受け入れている延べ 39 大学³の関係者にとっても参考資料となるだろう。

そこで、筆者は留学生センターにおける日韓プログラム予備教育の責任者という立場か

ら、第1期から第4期までのプログラム学生、および学生の学部での指導教員にアンケート調査（以下、「調査」と略す）を行った。本稿では、調査の概要と結果を報告し、さらに調査結果を受けて予備教育側の立場からのコメントを述べる。

II. 調査概要

本調査は、齋藤他（2004）で行った「日韓プログラム志望から学部進学まで」の調査を補完し、「学部進学後の日韓プログラム生の学業及び生活面における意識を調べるとともに、学部進学後の受入れ教員からの反応や意見を知る」目的で行った⁴。日韓プログラムでは、予備教育を担当する（本学の場合は）留学生センター、学部進学後の受入れ先である学部・学科との連携が何よりもまず必要であり、またその2つの組織で教育を受ける日韓プログラム生の意識を追跡調査することが欠かせないからである。

調査に当たっては、日韓プログラム学生用と受入れ教員用の2種類を作成した（本稿末の付録参照）。調査事項は以下で述べるように上記の齋藤他（2004）での質問事項との連続性を重視し、かつ2000年から年1回の割合で継続的に行われてきた「日韓プログラム協議会」⁵で扱われてきて課題テーマを参考に選んだ。なお、学生向けは面接による口頭調査にし、受入れ教員に対しては記述による回答型式にした。また学生向け調査においては、学生本人の同意を得て内容をすべて録音し、後日文字化した。

学生向けの調査内容は、①学部学生としての学業面・生活面に関するもの（付録の調査項目1番目から6番目まで）、②卒業後の進路に関するもの（同7番目）、③学部入学後から見た予備教育に対するコメント（同8番目）、④プログラム全体に対するコメント（同9番目）、となっている。

一方、受入れ教員向けの調査内容は、①受入れたプログラム学生に対する様々な角度からの所見（付録の調査項目1番目から6番目まで）、②卒業後の進路に対するアドバイス（同7番目）、③プログラム学生を受け入れて負担に感じる事柄（同8番目）、④予備教育に対する要望（同9番目）、⑤プログラム全体に対するコメント（同10番目）、となっている。

調査時期は、学生に対する面接調査が2004年6月から2005年1月にかけて、受入れ教員に対する調査が2005年2月の1ヶ月間である。

III. 調査結果

学生の回答者は計9名であった。1期生は卒業を控えて卒業研究に従事していたことなどもあり3名中1名の回答であった⁶。他方、2期生から4期生は全員が回答した。5期生は調査期間中まだ予備教育を受けている最中であったため対象から外した。一方、受入れ教員分については8名中⁷4名から回答があった。

本調査では、1) 本学配置の日韓プログラム生の絶対数が少ないこと、2) 被験対象者の生の声を内外のプログラム関係者に幅広く知らしめることの2つの理由から、統計的分析をほぼ行わないままの形で結果を提示する⁸。まず、日韓プログラム生に対するアンケー

ト結果からである。(表2参照)

表2 日韓プログラム生対象アンケート調査結果

期	健康	コメント	単位	コメント	教養	専門	卒業研究	課外	進路	予備教育	事業全体
1	5		1	卒業できる。あと専門4単位(現在受講中)と卒業研究を残すのみ。	レポートを書きながら日本語の勉強になった。	自分の専門に対する勉強もできた。	高分子を作つて、溶媒との反応を調べどいうところに見えるかを研究している。	1年半アカベラサークル活動をしていた。アルバイトで韓国語を教え、県や市の要請があったとき通訳の仕事もして、石川県全体を知ることができて良い経験になった。	はじめは就職を考えましたが、今はもっと研究を続けたほうがよいと思うようになった。金沢大学、東京と大阪の大学の大学院入試を受けるつもり。	日本に関する勉強になった部分があった。その当時は重要ではないと思ったことも後から役に立った点もあった。きちんとした日本語の勉強は学部に入ってからできるようになった。	奨学金の額は金沢での生活には十分だった。
2	3	勉強が忙しく就寝時間が遅くなっている。	1	予定よりは少ないが、進学には問題ない。取得数は普通だと思う。	特にやさしかったのは日本語や一般的な教養科目(キャリアプラン、ベンチャービジネス)。医学部向きの「薬とライフサイエンス」や教育学部向けの「21世紀の教師像」は工学部の自分が聞いていて難易度が高かつらかった。	1年生のときはやさしいとか難しいということはなかった。2年生になって全部専門科目になって難しくなった。特に数学的なアルゴリズムなどは自分にとって難しかった。専門の学生でも全部理解するのはむずかしいといわれていた。	情報システムで一番人気がある「集積回路」をやりたいが、研究室に入れるかどうかまだわからない。(特に私が目指す研究室は社会から要求されるテーマを扱っていて未来がある。)	1年生のときにクラブ活動をしようにしたが、今は特になし。	去年目の手術を受けたので兵役は免除されている。だから今は就職よりも進学したいと考えるようになった。それに大学院を出ると年俸も違うと聞いた。進学先は金沢大学大学院を考えている。	数学のカリキュラムが線型代数や微積分で、学科の1年生と同じで役に立った。少なくとも自分の学科は予備教育のときの内容で十分だった。日本語は2年のときうまくなったと感じたが、3年になって先生とのコミュニケーションが増え	1期生と2期生は先例がなかったのだから、卒業後のことを教えてくれる人がいない。国のほうである程度の情報を提供してくれるとうれしい。

											専門的内容になつて、日本人学生の発表を見ると少々話しくくなつた。	
2	3	3 食きちんと食べている。起きるのがつらい。	0	あまり興味が ない。取得状況 もよく把握し ていない。	自然系の科目 が難しかった。 パズルのよ うな科目が 特に難しかった。 大講義は 出席すればよ かったのでや さしかった。	電気系が難し かった。通信 や情報系の科 目はやさしか った。	今はしたいこ とはない。4 年になって研 究室のリスト を見て決め る。	今はやってい ません。前は1 年前期6ヶ月 間馬術部に入 っていた。	卒業したらた ぶん韓国で就 職したい。仕 事をすれば兵 役免除になる ものがある。4 年の終わりご ろに調べるつ もり。	もっと自由時 間がほしかつ た。テレビを みると日本語 の勉強に役に 立つ。	兵役はどうに かしてくれた らありがたい が、国の問題 なので難しい ことはわかっ ている。	
3	5	予備教育 のときの 悪習慣を 取り除く のが大変 だった。 韓国は大 学に入っ たらおし まいとい う風潮が あるが、 日本は違 うので大 変だっ た。	1	計画より6つ ほど足りない が、大体大丈 夫。	線型代数など は予備教育で うけたので困 らなかったが、社会科学 の科目は歴史 などが関係し ていて、特に 漢字がわから ず(中国の王 朝名)難しく 感じた。自然 系はわかっ ている部分があ ったので何と なかった。	プログラミン グはすぐにで きるが、電気 回路がだめだ った。難しい。	適応システム など、普通の コンピュータ で環境にどの ように順応す るか、に興味 がある。	今はやってい ない。	4年までにお 金を貯めてい って、お金 がたまったら進 学を考えた い。進学して 博士課程まで すすめば兵役 はしなくても よい。だめだ ったら兵役を すすめたい。	日本語は勉強 には困らない が、小説を読 むには足りな いと感じる。 日本語の勉強 は十分だっ た。少数者だ ったので、専 門教科では問 題をもっと解 いて個人的に みてくれると 良かった。	同級生の友人 みたいに優秀 な学生は早期 卒業ができる ようにしてほ しい。	
3	5	生活のリ ズムは大 丈夫。料 理は1年 もすれば	1	取得する単位 は全部とっ ている。何も落 していない。	出席だけすれ ばよい科目は やさしかった。 物理の最 前線というの は毎回レポー	数学科から来 た先生の教え 方には難しく 感じた。でも、 わからない点 は質問した。	GPUと量子 力学とあわせ て何かできな いかと考えて いる。	何もしてい ません。趣味が あるから大丈 夫。	兵役よりもま ずアメリカの 大学院を希望 している。	予備教育のと き日本語力が 足りなかった が、1年になっ て日本語がわ かるようにな	12月末に新潟 の韓国教育院 から突然電話 がきて成績を 出せといわれ た、それは	

		上手にな った。			トを書かな ければなら ず難 しかった。					り自分で動 けるようにな った。	よくないと思 う。
3	4	今は睡眠 も食事も 問題な い。	0	1年のときの 計画が粗すぎ て今大変。3年 前期で教養は 全部取れると 思う。専門は大 丈夫。	日本語はあま り難しくな い。化学はも ともと苦手な ので難しく感 じる。社会科 目も難しい。 日本事情以外 取れる科目が 少ないから。	やさしいもの もないが、難 しいものもな い。	量子力学や一 般相対性理論 は自分で勉強 している。	していま せ。教養の単 位をとるため 今は大変。今 は充実してい るかどうか感 じない。	兵役に行かな いで大学院へ いけたらよ い。アメリカ の大学院に入 りたいので、 英語も勉強し ている。	日本語は役に 立っている。 数学の線型代 数は大事なの で、勉強のテ ンポを遅く丁 寧に基本をす ればよい。	理学部に入る 人は積み重ね が大事だとい うことを言い たい。
4	4	時々リズム ムは狂う が、本当 にやろう と思えば やれるの で、すぐ にリズム は戻る。 教養の授 業はとき どき遅刻 してしま う。料理 もきちん とできて いる。	1	前期で24単位 取れていて、後 期も22単位取 れる予定で、こ れで教養の科 目は終わる。	数学分野と英 語はやさし い。文学に関 連することは 内容が難し い。宿題やレ ポートを書く のが特に難し い。前期の「マ ネージメント と意思決定」 というのは難 しかった。	専門は全部難 しい。高校と 違って、全部 証明問題ばか りでまだ慣れ ていない。	専門的な興味 はまだ今は分 からない。	何もしていな い。	最初は大学院 を考えるが、 入れなかった ら軍隊に入る。 軍隊が終 わったらもう 一度大学院を 目指す。	予備教育で勉 強した数学は 基礎科目には 役に立ってい る。日本語の 授業を受けて いなかったら もっと難しく 感じたであ ろ。また、予 備教育のとき に学部の授業 を取ってみる とよかったの ではないか。 自分の専門に ついてどのよ うに臨めばよ いか分かる。	お金が足りな い。奨学金の サインが厳し い。2月に韓国 に帰って3月 15日に帰国す るとその月の 奨学金が出て いなかった。
		特に問題 はない。		今は良い。前期 は何も単位を	プリントなど がきちんとあ	うちの学科は 文系的な科目	まだ1年生な ので学科で何	何もしていな い。	大学院に入ろ うと思ってい	予備教育は日 本語のほうが	軍隊の問題だ が、大学の途

4	4	健康状態は良い料理は問題があるといえれば問題があるが何とかやっている。	1	落とさなかった	る科目はやさしい。先生が黒板にばらばらと書くだけの授業は難しい。留学生にとって授業中にすべての内容を理解できるようにするのは難しく、家に帰ってから復習できないと難しい。理系の科目のほうが開きやすい。	が多い。前期は序論でしたが、環境学と人体科学は内容がけっこうあって難しい。	ができるかわからないが、興味は予備教育の時から変わっていない。		る。韓国人男子の場合、大学院か軍隊しかないから。外国の大学院がよい。	役に立っている。授業が聞きやすくなった。数学や物理よりも日本語のほうが役に立った。でも、理系のための漢字を独立した授業で教えてくれると良かった。化学や人体工学や環境学、生物でいろいろな漢字語がでてくる。予備教育全体は良かった。	中で軍隊に入れるようにしてほしい。4期生から入学の制度がかわって予備教育で学生が勉強しなかった。3期までのような選考のほうよかった。緊張が保てるから。
4	5		1	前期はSが7つ、Aが6つ、Bが1つだった。後期もだいたい単位はもらえると思う。	高校時代に地球科学に転学したから、それに関する科目はやさしかった。レポートをたくさん書く科目は難しかった。自分の場合はまず韓国語で書くので日本人よりも何倍も時間がかかる。	専門はそれなりに難しいけどそれほど問題ない。	化学のほうに興味がある。	何もしていない。	大学院に入って勉強し、その後軍隊に行つて、士官学校の教官試験を受けて兵役をしたと思っている。	別にありません。	選抜方法が変わったが、勉強するかや、留学の準備をするかなどは自分の心の問題だと思う。先に配置試験があったほうがよい。自分の場合は日本語の勉強に必死で、留学の準備をする余裕がなかった。

全般的に見ると、さほど経済的な心配をすることなく勉学に打ち込んでおり、難しいと感じる科目に個人差はあっても卒業に必要な単位取得に向けて努力している、と総括できる。男子学生の場合、兵役よりもまず大学院進学を目指しており、中にはアメリカの大学院を目指して英語の勉強もしているという者もいる。予備教育についてはほとんどが非常によかったという積極的な評価をしており、さらに専門教科の漢字等の教育を望む者も見られた。事業全体に対するコメントでは、いろいろと有益な意見が出ている点も見逃せない。兵役問題、いわゆる飛び級による早期卒業→大学院進学制度について、また卒業後の就職に関する情報を望む声や、学部に入學してからわかった所属学部の特徴を後輩に伝えるメッセージ等、さまざまな意見が寄せられた。

次にプログラム学生を受け入れた教員に対する調査結果である。(表3参照)

表 3 日韓プログラム受入れ教員対象アンケート調査結果

所属	全体	学業	単位	生活	相談	頻度	感想	兵役	負担	要望	事業全体
工学部 物質化学工学科	4	4	3	3	1	5	4	具体的な指導はできない。本人の判断に任せる。受入れの時期と勉学状況とはあまり関係がないので、いづれでもよい。	3, 4, 5	指導教員は生活指導ができない。プライバシーのこともあり、全く関与しておりません。	
工学部 情報システム工学科	4	3	4	3	1	3	3	現在担当している学生は大学院志望しているが、とくに兵役の相談は受けていません。奨学金や大学院入試について質問を受けました。もし、兵役の相談を受けた場合は、進学を先にすることを勧めます。	5	現在担当している学生については、特に問題ないが、日本語の理解が不十分な学生については講義聴講に支障のないような日本語教育を期待したい。	特にごさません。
理学部								私の知人(韓国在住の数学教授、およびポスドクの研究者達)の例では、全員兵役を終わってから大学院で勉強したようです。これ			

数学科	3	3	3	3	0	3	らの例からも、もし本人が本当に勉強したいのであれば、大学院進学までの空白期間はあまり問題にならないのではと助言する。	5	
工学部 人間・ 機械工 学科	4	3	3	3	1	3	4	3, 11	本人の優先順序のとおりでよい。学部と異なり、考え方と実行力がより重要である大学院では、2～3年の空白は問題でなく、要はやる気の問題である。 角間にほとんどいるため接触が少ないためか、特に言うことはない。ただし、過去のマレーシア政府留学生のほとんどは基礎学力が不足しており、単位修得に非常に困っている。普通なら留年。日韓留学生は国費留学生であり、また、支援組織もしっかりしているの でそのようなことはないと思われる。担当の学生は性格的に明るく、また、ゼミナールや発表会での内容から判断して非常に好ましいと感じる。但し、日韓留学生の一般論かどうかは判断できない。

全体的には、日韓プログラム生の受入れを肯定的に評価しているということがわかる。男子の兵役とそれに絡む大学院進学に対するアドバイスでは「本人の意志次第」という意見が大勢を占め、兵役によりブランクが生じたとしても問題なしとしている。この点は今後プログラム学生に対して情報としてきちんと伝える必要があるだろう。また、プログラム生を受け入れての負担は「学業・進路指導」が2例、「住宅保証」が3例見られたが、後者の問題に関しては、注2で述べたとおり、第5期から大学による機関保証制度が創設されたことにより解消している。

IV. 予備教育コーディネーターの立場から～調査結果に対するまとめ～

前述のとおり、日韓プログラム開始からの6年の間にプログラムをめぐる状況がさまざまな形で変化した。本稿ではそれら一つひとつに対して言及することはできないが、金沢大学における日韓プログラム予備教育を統括する立場から、アンケート結果をまとめさらに現状を踏まえた上での簡単な提言を行いたい。

1. 日韓プログラム生対象の調査を受けて

1) 予備教育の質を調査時点まで程度の水準に保ち続けること

4期生までを対象にした本調査で、予備教育の評価は上述のように比較的高かったと言える。しかし、5期生以降国立大学の法人化に伴って大学全体で非常勤講師予算が削減されている。本学における予備教育でも、留学生センターで受け持っていた専門教科の非常勤雇用が削減対象となり、学部側のTAによる教育が開始された。

安他（2006:79）によると、非常勤削減による専門教科教育の質をどう保つかの問題は、本学に限らず「配置人数が少ない大学」に共通した悩みであり、「受け入れ人数が少ないため、予算確保が難しく、その結果、専門教科の教育が手薄になりやすいという法人化後の各大学の財政面の厳しさが影響している」という。本学においても日韓プログラム予備教育の質をいかに3期生までのレベルに保ち続けるかが今後の大きな課題の一つである。

2) 卒業後の進路、特に大学院進学希望や兵役、就職について

9名中8名が就職よりもまず大学院への進学を考えている。男子の場合は兵役履行を横目で睨みながらも、大学院進学のために英語学習の必要性や進学のための資金について考えようとしている様子が見える。

本学の予備教育でもこのような流れを受けて、専門教科の削減コマを利用して2005-6年度の第6期に「専門英語読解」を1コマ盛り込んだ。今後は、日韓プログラム生の卒業後までを視野に入れた何らかの相談体制を整えていく必要があるだろう。

2. 学部受入れ教員対象の調査を受けて

1) 学生本人が希望すれば大学院進学を優先せよと指導する

最終的な判断は本人次第だが、受け入れる側として、意志さえあれば大学院進学の門戸

は開いているという姿勢を持っていることがわかる。

つまり、プログラム開始当時非常に問題だと考えられていた「進学か兵役か」の問題については、学生・教員双方において現在はさほど問題にはならなくなっていることを示しているといえる。

2) 指導教員として学業面での指導をどう行えばよいか模索中である

日本語力が不足していないか心配したり、マレーシア政府派遣留学生との比較で日韓プログラム生を見ようとしたりしているなど、本プログラムの学生に対しての指導の仕方が模索されている最中であると言える。予備教育との連携を強化するためにも、筆者が学部進学先の受入れ教員とも定期的に連絡を取り合う必要性を強く感じる。

V. 日韓プログラムの今後に向けて

本学における日韓プログラムの現状は、安他（2006）の「Bグループ：受入れが比較的安定している大学」の中では、プログラムの運営が総合的にみて比較的うまくいっている例であるといえるが、上記のとおり法人化後のプログラムをめぐる状況は決して安泰ではない。本プログラムは開始当初から、人数が少ない割には手間がかかりすぎるという面も持ち合わせているからである。

しかしながら、日韓プログラムはそもそも「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップのための行動計画」⁹に沿って始まったものであるということをごここで今一度思い起こすべきである。両国の関係は、首脳相互訪問や文化交流などを通じ、かつてとは比べものにならないほど進展したが、一方では歴史認識の問題などにより、時として交流の度合いが一進一退を繰り返している事実も厳然としてある。そのような中で、日韓プログラムを通じた交流は、当初の目的どおり「新たな日韓パートナーシップ」へ向けた不変のものであることを、本学も日韓プログラムを通して示し続けていくべきだと筆者は考える。

参考文献

- 安龍洙・金重燮・酒勾康裕・趙顯龍（2006）「日本における日韓理工系学部留学生事業の実施状況に関する報告－21 大学を対象に実施したアンケート調査に基づいて－」、『茨城大学留学生センター紀要』第4号，77-106
- 太田亨（2001）「金沢大学における日韓共同理工系学部留学生受入れ事業の取り組みについて」、『金沢大学留学生センター紀要』第4号，53-80
- 金重燮（2005）「慶熙大学校における6期生の予備教育の状況及びプロジェクトについて」、『平成17年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会資料（2005.7.22）』，広島大学留学生センター，1-27
- 金重燮・趙顯龍・柳志潤・安龍洙（2005）『韓日工科大学学部留学生派遣事業－評価及び運営方案研究』，大韓民国教育人的資源部国際教育振興院〔原文，韓国語〕
- 齋藤美智子・田山のり子・太田亨（2004）「日韓共同理工系学部留学生に対する3大学共同

意識調査－留学志望から学部進学まで－,『岡山大学留学生センター紀要』第11号, 59-77
横浜国立大学留学生センター (2003) 『2003年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会 日
韓共同理工系学部留学生事業の課題と今後の展開』

付録

1. 金沢大学における日韓共同理工系学部留学生 FD アンケート(学生用)

プログラム第 () 期

名前: _____ 性別: 男 ・ 女

学部: 工 ・ 理 学部 (○をつけてください) () 学科

1) 現在の生活リズムと健康状態

⑤□ とても良い ④□ 良い ③□ 普通 ②□ 悪い ①□ 大変悪い

「悪い」と「大変悪い」の場合は具体的に何がどう悪いのか書いてください。

2) 現在まで単位取得は予定通りに進んでいますか? (☑を入れてください。)

①□ はい ②□ いいえ (なぜ →)

3) 教養的科目について、具体的にどの科目がやさしく、どの科目が難しかったか。

4) 学部の専門科目について、具体的にどの科目がやさしく、どの科目が難しかったか。

5) 卒業研究で行いたいと考えている(または、現在行っている)内容について簡潔に書いてください。(少々専門的な内容になってもかまいません。)

6) 大学生としての生活で特にしている活動(クラブ・サークル活動、大学外での活動)

①□ なし ②□ あり (何? →)

7) 卒業後の進路について、男子の場合は兵役の予定とあわせて書いてください。

8) 学部入学後から見た、留学生センターでの予備教育中の指導内容に対するコメントや要望(日本語教育面、専門教科教育面、生活面、健康面、情報面など)

9) 日韓両政府に対する事業全体に関することも含めて、その他、特に付け加えたいこと

2. 金沢大学における日韓共同理工系学部留学生 FD アンケート(受入教員用)

御芳名: _____

御所属: _____ 職名: _____

受け入れた日韓共同理工系学部留学生について

第 () 期生

(第1期→2000-2005、第2期→2001-2006、第3期→2002-2007、第4期→2003-2008)

名前: _____ 性別: 男 ・ 女

学部: 工 ・ 理 学部 () 学科

1) 受け入れ学生の「学部生」としての全体的な評価 (☑をお入れください。)

④□ とても良い ③□ 良い ②□ 悪い ①□ 大変悪い

(「悪い」と「大変悪い」の場合は具体的に何がどう悪いのかお書きください。)

- 2) 学業面に対する評価と所見 (☑をお入れください。)
- ④□ 大変良好 ③□ 良好 ②□ 心配 ①□ 大変心配
- (「心配」と「大変心配」の場合は具体的に何がどうなのかお書きください。)
- 3) 単位取得面に対する評価と所見 (☑をお入れください。)
- ④□ 大変良好 ③□ 良好 ②□ 心配 ①□ 大変心配
- (「心配」と「大変心配」の場合は具体的に何がどうなのかお書きください。)
- 4) 生活面における所見 (☑をお入れください。)
- ④□ 大変良好 ③□ 良好 ②□ 心配 ①□ 大変心配
- (「心配」と「大変心配」の場合は具体的に何がどうなのかお書きください。)
- 5) 学習方法や進路、卒業研究などについて定期的に相談しに来ているか。
- (☑をお入れください。)
- ①□ 来ている、頻度は () [年、ヶ月、週間] に () 回程度
- ②□ ほとんど、または、まったく来ない
- 6) 日韓共同理工系学部留学生を学科に受け入れての感想 (☑をお入れください。)
- ④□ とても良い ③□ 良い ②□ 悪い ①□ 大変悪い
- (「悪い」と「大変悪い」の場合は具体的に何がどう悪いのかお書きください。)
- 7) 韓国人男子は遅くとも満27歳までに2年～2年5ヶ月の兵役義務があります。卒業後の進路について、男子留学生が大学院を志望する場合、兵役をいつ果たすか悩んでいるケースが多く見られます。例えば、一般的に言って、兵役を先にした場合、大学院進学までに空白期間ができてしまい、勉学に遅れをとるのではないかという不安を感じるようです。受け入れた学生が大学院を志望し、兵役か進学かについての相談を受けられた場合、具体的にどのような御指導をなさいますか。
- 8) 本事業を通して、日ごろからご負担に感じられることは何ですか。下の中から選び、該当するものすべてに☑をお入れください。
- | | |
|------------------|--------------------|
| ① 受入れ事業への参加 □ | ⑧ 学生への連絡 □ |
| ② 受入れ選考業務 □ | ⑨ 事業に関する情報収集 □ |
| ③ 学業・進路指導 □ | ⑩ 留学生センターとの連絡 □ |
| ④ 生活指導 □ | ⑪ 予備教育への関与 □ |
| ⑤ 住居保証 □ | ⑫ その他 □ |
| ⑦ 学生との人間関係 □ | |
- 9) 学部受け入れ後から見た、留学生センターでの予備教育中の指導内容に対する御要望 (日本語教育面、生活指導面、情報面、連携面等) がありましたらお書きください。
- 10) 事業全体に関して、ご意見・ご質問等がありましたらお書きください。

要 旨

金沢大学における日韓共同理工系学部留学生事業に関する中間評価として、第1期から第4期の学生と学部で学生を受け入れた教員を対象にアンケート調査を行った。本稿はその結果をまとめて公表するものである。また、予備教育を担当する立場から今後の事業に対する提言もあわせて行った。

ABSTRACT

As a midterm evaluation of the Japan-Korea Joint Exchange Program for Science and Engineering Students, I have applied two forms of questionnaires to nine students of the 1st - 4th-term-program and their tutorial professors respectively. This paper publishes the results and, I have added, in the last chapter, comments and proposals for the near future of the program.

注

¹ 平成17年11月10日に大韓民国教育人的資源部国際教育振興院より第7期生の合格発表が行われた。その結果によると、金沢大学にはさらに3名（工学部電気電子システム工学科、同学部人間・機械工学科、同学部機能機械工学科に各1名）が配置される。

² 卓近な例で言えば、①金沢大学理学部が日韓プログラムに参加（第3期より）、②日韓プログラムの学生選抜方法が変わり、韓国における予備教育開始前に日本の配置先大学学部学科が決定（第4期より）、③金沢大学の法人化に伴い専門教科教育の主体が学部側に移行（第5期より）、④学部入学時のアパート賃貸の際における金沢大学による機関保証制度の開始（同）、などが挙げられる。

³ 金（2005:26-27）の「資料4：1～6期の大学別配置状況」による。

⁴ 筆者は、齋藤他（2004）で、金沢大学ならびに岡山大学、東京外国語大学（学部は東京大学へ進学）で予備教育を受けた第1期から第3期までの日韓プログラム生計36名に対し、日韓プログラムをめぐり留学志望から学部進学までの間にどのようなことを感じ考えたかについての共同意識調査結果を公表している。

なお、日本側21大学の第5期までをより包括的に扱ったアンケート調査の結果は安他（2006）で、さらに日本側21大学に加えて韓国側予備教育に対する調査も加わった報告は金他（2005）で公表されている。

⁵ 冊子化された報告書として横浜国立大学留学生センター（2003）があげられる。この年の主な課題テーマは、1）日韓双方の予備教育の連携の可能性について、2）学部進学後の1～3期生の学習態度と予備教育への提言、4）4期生の特徴、特に選抜方式が第3期までと異なり日本の進学先が決まってから韓国側予備教育が開始されることに伴う諸問題、などであった。本調査で学部教員の意見を求めたのもこのような流れを汲んだものである。

⁶ 1期生の中に、家庭の事情から休学し日韓プログラムを辞退した学生が1名いる。この学生はもちろんアンケートの対象になっていない。

⁷ 工学部で同一教員が2名のプログラム学生の指導教員となっているケースがあるためである。

⁸ そのままの形とはいえ、個人情報保護の立場から、個人名に関する部分と個人が特定されるような表現の部分は極力伏せて掲載した。

⁹ 平成10年11月9日付けの文部省学術国際局留学生課文書「日韓留学生交流について」による。